

教員養成における小学校専門科目「図画工作」に関する研究(2) — 図画工作の嗜好傾向と学生の専攻分野との関連 —

小 江 和 樹 [鹿児島大学教育学系(美術教育)]

小 江 香南子 [鹿児島国際大学福祉社会学部(児童学科)]

A study on an elementary school special subject 'Art and Handicraft' in the teacher training (2)

-The relation between the taste tendency of 'Art and Handicraft' and the specialty field of the student-

OE Kazuki · OE Kanako

キーワード：教員養成、小学校専門科目、図画工作

1. はじめに

小学校において図画工作を指導していく上で、造形表現に関する基礎的知識や能力をもとにした実践的スキル、さらに教材解釈や教材開発の能力は、指導者にとって非常に重要なものであると言える。そこで本研究は、小学校図画工作の実践的な指導力を育成するために、教員養成における小学校専門科目としての「図画工作」の在り方について明らかにすることを目的としている。

まず前稿では、小学校教員を目指す大学生へのアンケート調査を実施し、小学校で受けた図画工作の授業やその内容についての調査を通して、経験の実態を明らかにするとともに、どのような領域、分野に苦手意識を持っているかについて考察を行なった。

そこで本稿では、同様のアンケート調査の調査対象学生数を増やすとともに、アンケート結果をさらに深く詳細に分析して、図画工作各領域及び分野の嗜好傾向と学生の専攻分野(所属専修)との関連性について明らかにしたい。このような視点をもとにした考察は、受講対象学生の所属専修に対応した小学校専門科目「図画工作」の授業内容を構築していく上で、重要な要素であると考えられる。

2. 研究方法

小学校「図画工作」についてのアンケート調査
調査対象：

鹿児島大学教育学部学生 336 名

調査項目：

小学校で受けた図画工作の授業

小学校で受けた図画工作の授業内容

①：絵を描く

②：版画(木版画、紙版画など)

③：粘土でつくる

④：工作(紙、木などを使って)

⑤：焼き物をつくる

⑥：造形遊び(教室内の活動)

⑦：造形遊び(教室外の活動)

⑧：パソコンで絵を描く

⑨：写真作品の製作

⑩：作品鑑賞

回答方法：

選択式

1：好き

2：きらい

3：どちらでもない

4：経験しなかった

分析方法：

入学者選抜方法等をもとに、学生の専攻分野(専修)を次に示す7つのグループに分けて調査項目とその具体的な内容ごとに集計を行い、各グループの傾向と特徴について考察

Aグループ：国語・社会・英語

Bグループ：数学・理科・技術・家政

- Cグループ：音楽
 Dグループ：美術
 Eグループ：保健体育
 Fグループ：教育学・心理学・障害児教育
 Gグループ：地域社会教育・健康教育・国際理解教育

3. アンケート調査の結果と考察

(1) Aグループ（国語・社会・英語）

●小学校で受けた図画工作の授業

表1-1：小学校時代の図画工作

回答	回答数	割合
1「好き」	39	68.4%
2「きれい」	11	19.3%
3「どちらでもない」	7	12.3%

Aグループ57名の中で、39名が「好き」と回答している。これは全体の68.4%にあたり、高い数値であるといえる。しかしながら19.3%は明らかに「きれい」と回答している。

●小学校で受けた図画工作の授業内容

表1-2：回答結果（概数）

項目	1	2	3	4
①	53%	28%	19%	0%
②	60%	21%	19%	0%
③	60%	12%	26%	2%
④	83%	5%	11%	2%
⑤	42%	5%	2%	51%
⑥	58%	7%	30%	5%
⑦	63%	4%	21%	12%
⑧	25%	16%	40%	19%
⑨	16%	0%	14%	70%
⑩	46%	17%	30%	7%

表1-2より、④工作（紙、木などを使って）、を「好き」と回答した学生は8割を超え、高い数値である。また⑦造形遊び（教室外での活動）を「好き」と回答した学生の割合も高い。一方で「きれい」と回答した学生が多いものは、①絵を描く、②版画（木版画、紙版画など）であるが、どれも3割以下である。そして⑤焼き物をつくる、⑨写真作品の製作を「経験しなかった」と回答してい

る学生が5割を超えている。

(2) Bグループ（数学・理科・技術・家政）

●小学校で受けた図画工作の授業

表2-1：小学校時代の図画工作

回答	回答数	割合
1「好き」	48	80.0%
2「きれい」	5	8.3%
3「どちらでもない」	7	11.7%

Bグループ60名の中で、48名が「好き」と回答している。これは全体の80.0%にあたり、非常に高い数値であるといえる。また「きれい」は8.3%で1割以下の低い数値である。

●小学校で受けた図画工作の授業内容

表2-2：回答結果（概数）

項目	1	2	3	4
①	60%	30%	10%	0%
②	60%	7%	33%	0%
③	61%	17%	20%	2%
④	85%	3%	12%	0%
⑤	33%	0%	10%	57%
⑥	53%	2%	28%	17%
⑦	45%	3%	25%	27%
⑧	32%	8%	33%	27%
⑨	20%	0%	5%	75%
⑩	43%	20%	32%	5%

表2-2より、④工作（紙、木などを使って）、を「好き」と回答した学生は8割を超え、高い数値である。また③粘土でつくるを「好き」と回答した学生の割合も高い。一方で「きれい」と回答した学生が多いものは、①絵を描く、⑩作品鑑賞であるが、どれも3割以下である。そして⑤焼き物をつくる、⑨写真作品の製作を「経験しなかった」と回答している学生が5割を超えている。

(3) Cグループ（音楽）

●小学校で受けた図画工作の授業

表3-1：小学校時代の図画工作

回答	回答数	割合
1「好き」	18	64.3%

2「きれい」	2	7.1%
3「どちらでもない」	8	28.6%

Cグループ28名の中で、18名が「好き」と回答している。これは全体の64.3%にあたり、高い数値であるといえる。また「きれい」は7.1%で1割以下の低い数値である。なお「どちらでもない」が28.6%であり、これは全グループ中、最も高い数値である。

●小学校で受けた図画工作の授業内容

表3-2：回答結果（概数）

項目	1	2	3	4
①	64%	18%	18%	0%
②	61%	14%	25%	0%
③	54%	7%	39%	0%
④	71%	11%	18%	0%
⑤	29%	7%	7%	57%
⑥	68%	3%	18%	11%
⑦	46%	7%	22%	25%
⑧	50%	7%	39%	4%
⑨	7%	0%	0%	93%
⑩	50%	4%	39%	7%

表3-2より、④工作（紙、木などを使って）と⑥造形遊び（教室内の活動）を「好き」と回答した学生は7割前後で高い数値である。一方で「きれい」と回答した学生が多いものは、①絵を描く、②版画（木版画、紙版画など）であるが、何れも2割以下である。そして⑤焼き物をつくる、⑨写真作品の製作を「経験しなかった」と回答している学生が5割を超え、特に写真作品の製作は、9割以上の学生が未経験である。

(4) Dグループ（美術）

●小学校で受けた図画工作の授業

表4-1：小学校時代の図画工作

回答	回答数	割合
1「好き」	22	91.7%
2「きれい」	2	8.3%
3「どちらでもない」	0	0%

Dグループ24名の中で、22名が「好き」と回答している。これは全体の91.7%にあたり、非常

に高い数値で、全グループ中、最も高い数値である。また「きれい」は8.3%で1割以下の低い数値である。

●小学校で受けた図画工作の授業内容

表4-2：回答結果（概数）

項目	1	2	3	4
①	96%	0%	4%	0%
②	46%	8%	42%	4%
③	75%	13%	13%	0%
④	88%	12%	0%	0%
⑤	17%	0%	13%	71%
⑥	75%	0%	8%	17%
⑦	58%	0%	8%	33%
⑧	54%	0%	13%	33%
⑨	13%	0%	13%	75%
⑩	42%	4%	46%	8%

表4-2より、①絵を描くと④工作（紙、木などを使って）を「好き」と回答した学生は8割を大きく超え、非常に高い数値である。また③粘土でつくる、⑥造形遊び（教室内の活動）を「好き」と回答した学生の割合も高い。一方で「きれい」と回答した学生の多いものは、③粘土でつくる、④工作（紙、木などを使って）であるが、何れも1割程度である。そして⑤焼き物をつくる、⑨写真作品の製作を「経験しなかった」と回答している学生が7割を超えている。

(5) Eグループ（保健体育）

●小学校で受けた図画工作の授業

表5-1：小学校時代の図画工作

回答	回答数	割合
1「好き」	29	60.4%
2「きれい」	10	20.8%
3「どちらでもない」	9	18.8%

Eグループ48名の中で、29名が「好き」と回答している。これは全体の60.4%にあたり、高い数値である。また「きれい」は20.8%で、全グループ中最も高い数値である。

●小学校で受けた図画工作の授業内容

表5-2：回答結果（概数）

項目	1	2	3	4
①	25%	42%	33%	0%
②	58%	13%	27%	2%
③	65%	8%	27%	0%
④	67%	8%	25%	0%
⑤	33%	2%	17%	48%
⑥	33%	10%	48%	8%
⑦	48%	10%	27%	15%
⑧	23%	25%	35%	17%
⑨	27%	4%	15%	54%
⑩	31%	15%	52%	2%

表5-2より、④工作（紙、木などを使って）と③粘土でつくるを「好き」と回答した学生は6割を超え、高い数値である。また②版画（木版画、紙版画など）を「好き」と回答した学生の割合も高い。一方で「きらい」と回答した学生が多いものは、①絵を描くが4割とやや高い数値であり、次に⑧パソコンで絵を描くである。そして⑤焼き物をつくる、⑨写真作品の製作を「経験しなかった」と回答している学生が5割前後である。

(6) Fグループ（教育学・心理学・障害児教育）

●小学校で受けた図画工作の授業

表6-1：小学校時代の図画工作

回答	回答数	割合
1「好き」	72	69.2%
2「きらい」	13	12.5%
3「どちらでもない」	19	18.3%

Fグループ104名の中で、72名が「好き」と回答している。これは全体の69.2%にあたり、高い数値である。また「きらい」は12.5%で、比較的高い数値である。

●小学校で受けた図画工作の授業内容

表6-2：回答結果（概数）

項目	1	2	3	4
①	59%	20%	21%	0%
②	65%	18%	16%	0%
③	71%	11%	18%	0%
④	75%	12%	13%	0%
⑤	37%	2%	11%	51%

⑥	55%	5%	25%	15%
⑦	54%	5%	21%	20%
⑧	42%	14%	17%	26%
⑨	15%	1%	13%	70%
⑩	34%	19%	43%	4%

表6-2より、④工作（紙、木などを使って）と③粘土でつくるを「好き」と回答した学生は7割を超え、高い数値である。また②版画（木版画、紙版画など）を「好き」と回答した学生の割合も高い。一方で「きらい」と回答した学生が多いものは、①絵を描く、⑩作品鑑賞であり、何れも2割程度である。そして⑤焼き物をつくる、⑨写真作品の製作を「経験しなかった」と回答している学生が5割を超えている。

(7) Gグループ（地域社会教育・健康教育・国際理解教育）

●小学校で受けた図画工作の授業

表7-1：小学校時代の図画工作

回答	回答数	割合
1「好き」	11	73.3%
2「きらい」	1	6.7%
3「どちらでもない」	3	20.0%

Gグループ15名の中で、11名が「好き」と回答している。これは全体の73.3%にあたり、高い数値である。また「きらい」は6.7%で、低い数値である。

●小学校で受けた図画工作の授業内容

表7-2：回答結果（概数）

項目	1	2	3	4
①	73%	7%	20%	0%
②	53%	20%	27%	0%
③	73%	7%	20%	0%
④	73%	13%	13%	0%
⑤	60%	7%	7%	27%
⑥	67%	7%	7%	20%
⑦	67%	0%	13%	20%
⑧	40%	7%	40%	13%
⑨	47%	7%	0%	47%
⑩	73%	20%	7%	0%

Gグループは調査対象が15名であるため、傾向や特徴の把握には不確実な部分もある。

表7-2より、①絵を描く、③粘土でつくる、④工作（紙、木などを使って）、⑩作品鑑賞を「好き」と回答した学生は7割を超え、高い数値である。一方で「きらい」と回答した学生が多いものは、②版画（木版画、紙版画など）と⑩作品鑑賞であり、何れも2割程度である。そして⑤焼き物をつくる、⑨写真作品の製作を「経験しなかった」と回答している学生が3、4割程度みられる。

以上のような結果から、各グループの傾向と特徴をもとに、学生の専門分野（所属専修）に応じた小学校専門科目「図画工作」の授業内容を構築していく上でのポイントについて考察してみたい。

Aグループ（国語・社会・英語）は、④工作（紙、木などを使って）や⑦造形遊び（教室外での活動）を好む傾向が高く、①絵を描くや②版画（木版画、紙版画など）に苦手意識がみられる。したがって、平面的な表現を中心に授業内容を構築していく必要があると考えられる。

Bグループ（数学・理科・技術・家政）は、図画工作を好む傾向が、Dグループ（美術専修）に次いで高い数値であるため、図画工作への興味、関心は非常に高いようである。また授業内容では、④工作（紙、木などを使って）や③粘土でつくるを好む傾向が高く、①絵を描くや⑩作品鑑賞に苦手意識がみられる。したがって、平面的な表現に加えて、作品鑑賞を取り入れる必要があると考えられる。

Cグループ（音楽）は、④工作（紙、木などを使って）や⑥造形遊び（教室内での活動）を好む傾向が高い。そして、①絵を描くや②版画（木版画、紙版画など）に苦手意識がみられるが、Aグループ程高い数値ではない。したがって、平面的な作品を中心に授業内容を構築していく必要があると考えられる。

Dグループ（美術）は、美術専修の学生であるため、図画工作を好む傾向が非常に高い。また、授業内容は、未経験の割合が高い⑤焼き物をつくと⑨写真作品の製作を除いて、高い値である。

特に、①絵を描くや④工作（紙、木などを使って）を好む傾向が非常に高い。そして、③粘土でつくと④工作（紙、木などを使って）に若干の苦手意識がみられることは、美術を専門とする学生でも、自分自身の得意、不得意な分野があることを示しているようである。②版画（木版画、紙版画など）と⑩作品鑑賞については、消極的な印象がうかがえる。したがって、特に不得意な分野の克服に向けた個別の授業内容の構築と版画表現や作品鑑賞を取り入れる必要があると考えられる。

Eグループ（保健体育）は、④工作（紙、木などを使って）や③粘土でつくるを好む傾向が高く、①絵を描くや⑧パソコンで絵を描くに苦手意識がみられる。したがって、平面的な表現、特に描く活動を中心に、パソコンを用いた表現活動なども取り入れる必要があると考えられる。

Fグループ（教育学・心理学・障害児教育）は、④工作（紙、木などを使って）や③粘土でつくるを好む傾向が高く、①絵を描くや⑩作品鑑賞に苦手意識がみられる。したがって、Bグループ同様、平面的な表現に加えて、作品鑑賞を取り入れる必要があると考えられる。

Gグループ（地域社会教育・健康教育・国際理解教育）は、アンケート対象学生数が少ないため、断定はできないが、①絵を描く、③粘土でつくる、④工作（紙、木などを使って）、⑩作品鑑賞を好む傾向が比較的高く、②版画（木版画、紙版画など）と⑩作品鑑賞に苦手意識がみられる。したがって、平面的な表現、特に版画表現を中心に、作品鑑賞を取り入れる必要があると考えられる。

また全般的な傾向としては、前稿でも述べたように、興味や関心は高いが経験が少ない内容である⑤焼き物をつくるや⑨写真作品の製作を取り入れた授業内容を構築し、展開していく必要があるという点があげられる。

4. おわりに

図画工作の内容に対する嗜好傾向や未経験の内容を把握することで、授業対象学生の専門分野（所属専修）に応じた小学校専門科目「図画工作」の授業内容を構築していく上でのポイントを明らかにすることができた。具体的には、次のような点

である。

- ・ AグループとCグループでは、平面的な表現を中心とした授業内容
- ・ BグループとFグループとGグループでは、平面的な表現に加え、作品鑑賞を取り入れた授業内容
- ・ Eグループでは、平面的な表現に加え、パソコンを用いた表現を取り入れ、何れも描く活動を重視した授業内容
- ・ Dグループでは、個に応じた授業内容の検討と版画表現や作品鑑賞を取り入れた授業内容

以上のような考察結果から、授業対象学生の専門分野に応じた授業内容の構築を進めるとともに、次稿においては、小学校における図画工作科の現状の把握を目的として、小学校学習指導要領図画工作編、小学校図画工作科教科書、さらに図画工作科教育関連雑誌に取り上げられている具体的な教材事例などをもとに、小学校専門科目「図画工作」の授業内容の構築に向けて、さらに考察を深めたいと考えている。